

平成26年度 神奈川区区民意識調査

調査結果報告書

(概要版)

平成26年10月

横浜市神奈川区

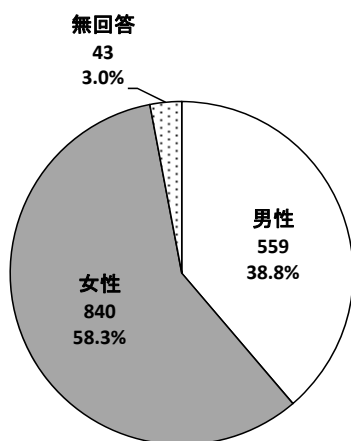
調査の概要

調査の設計	調査対象 区内在住 20 歳以上の男女 標本数 3,000 人 (うち外国人 50 人) 標本抽出 住民基本台帳からの無作為抽出 調査方法 郵送による無記名調査 (郵送配付・郵送回収・ハガキ督促 1 回) 調査期間 平成 26 年 6 月 12 日 (木)～6 月 27 日 (金) 有効回収数 1,442 人 有効回収率 48.1%
調査項目	(1) 日頃の生活について (2) 定住意向について (3) 現在のお住まいの環境について (4) 神奈川区の行政サービスについて (5) 災害への備えについて (6) 地域での生活について (7) 健康づくりについて (8) あなたご自身について

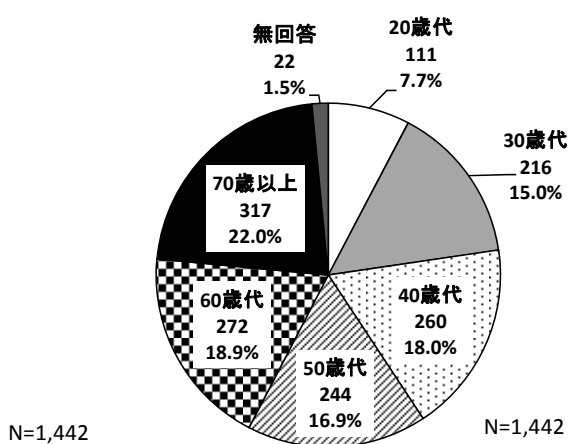
- ① 図(グラフ)の中で使用されているアルファベットNは、その設問に対する回答者数をあらわす。
- ② 回答の比率(すべて百分率(%)で表示)は、その設問の回答者数を基数(件数)として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると 100%を超える場合がある。また、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が 100%にならない場合がある。

回答者の属性

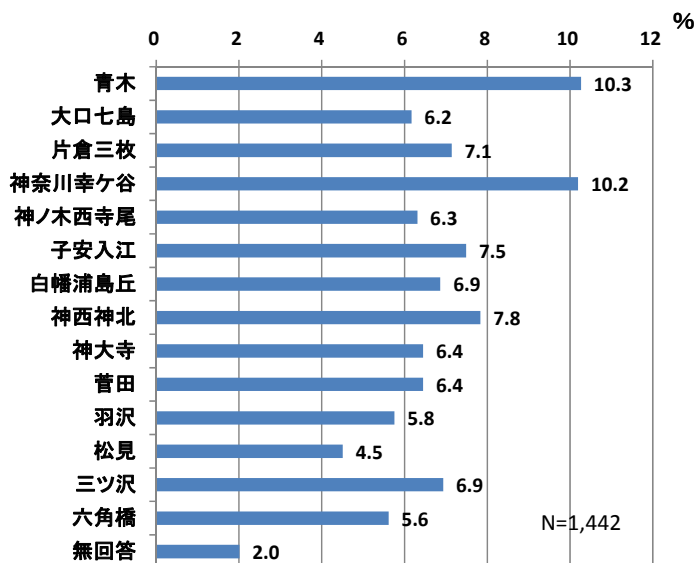
F1 性別(○は1つ)



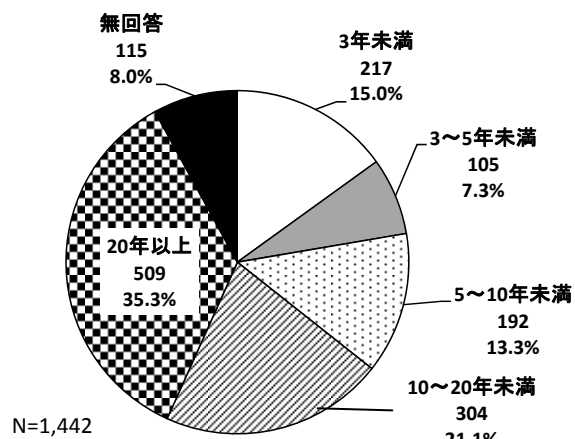
F2 年齢(○は1つ)



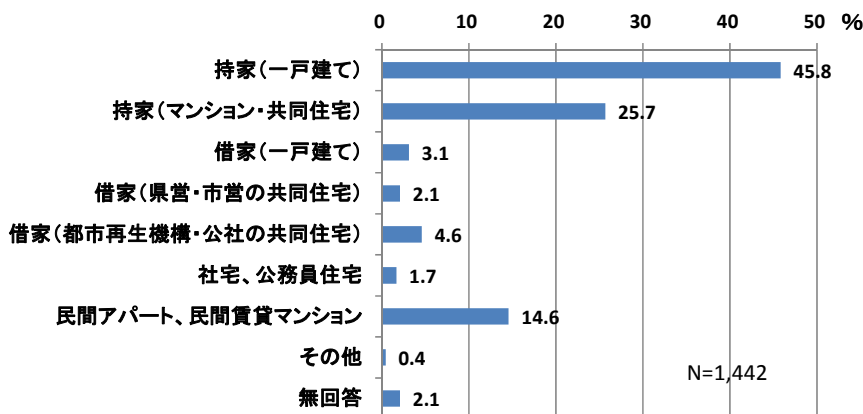
F3 居住地区(○は1つ)



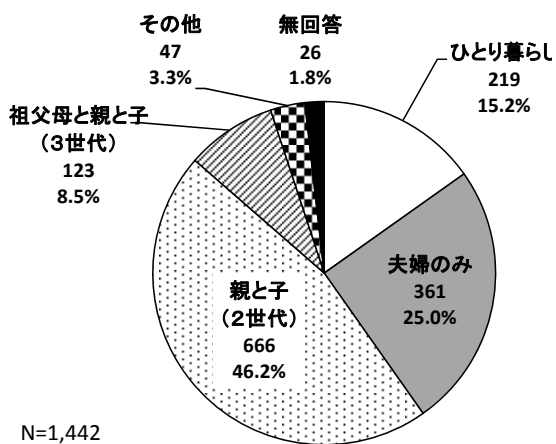
F4 居住年数(○は1つ)



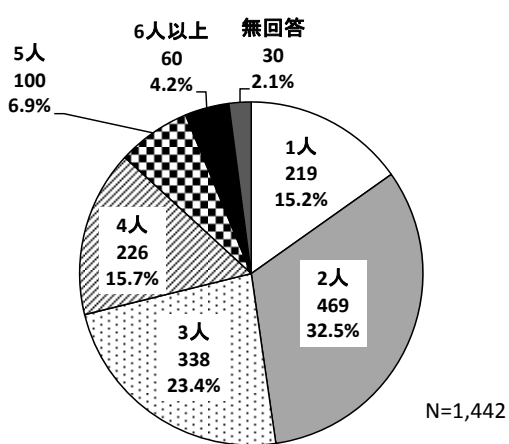
F5 居住形態(○は1つ)



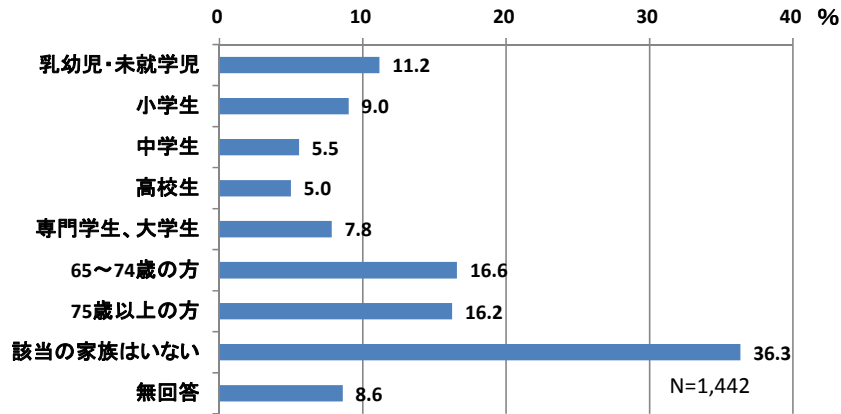
F6 家族構成(○は1つ)



F7 同居家族の人数(○は1つ)

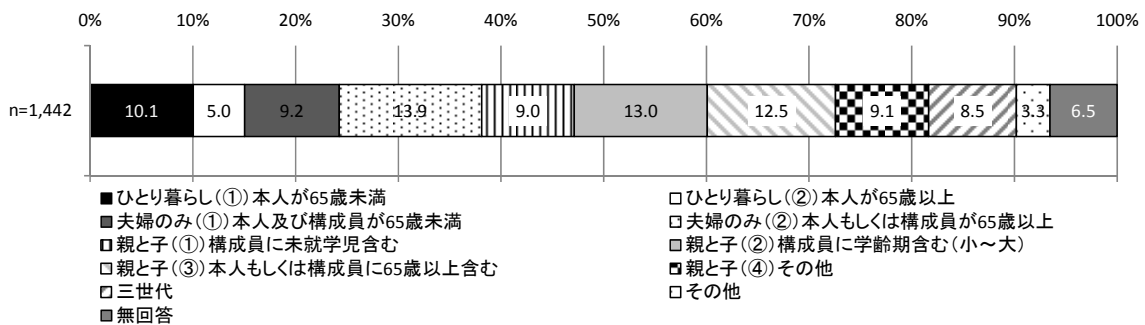


F8 乳幼児・未就学児、学童・学生、高齢者の有無(○はいくつでも)

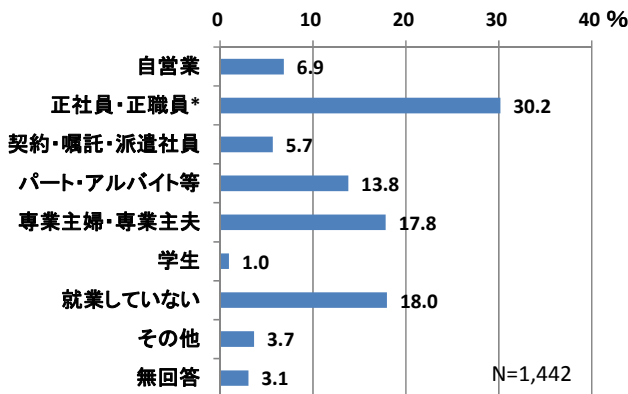


世帯類型

世帯類型		属性
ひとり暮らし	ひとり暮らし (①)	本人が65歳未満
	ひとり暮らし (②)	本人が65歳以上
夫婦のみ	夫婦のみ (①)	本人及び構成員が65歳未満
	夫婦のみ (②)	本人もしくは構成員が65歳以上
親と子	親と子 (①)	構成員に未就学児含む
	親と子 (②)	構成員に学齢期含む(小~大)
	親と子 (③)	本人もしくは構成員に65歳以上含む
	親と子 (④)	その他
三世代		三世代世帯
その他		上記にあてはまらない世帯

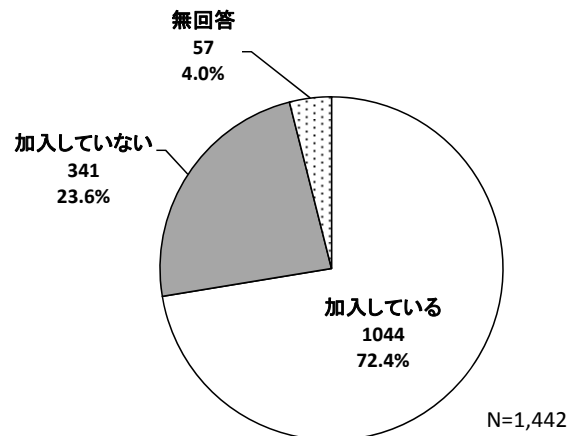


F9 就労状況(○は1つ)



* : 公務員・団体職員含む

F10 自治会町内会への加入状況(○は1つ)

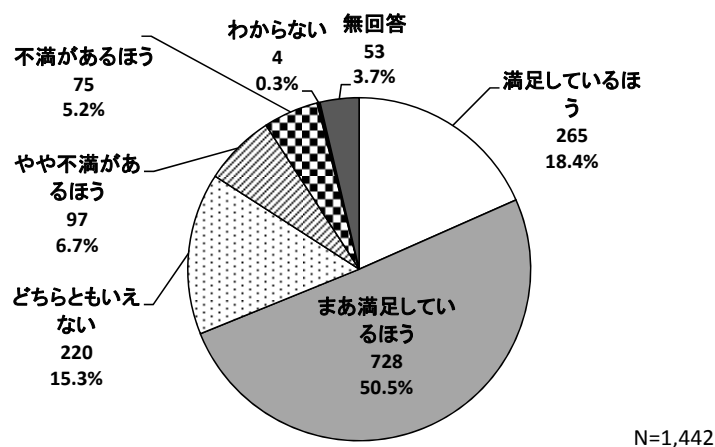


日頃の生活について

問1 あなたは、今のご自分の生活に満足しているほうですか、それとも、不満があるほうですか。
(○は1つ)

全体の7割近くが「満足」

「まあ満足しているほう」が最も多く約半数を占め、「満足しているほう」と合わせると全体の7割近くが満足としています。「やや不満があるほう」「不満があるほう」を合わせると1割強です。

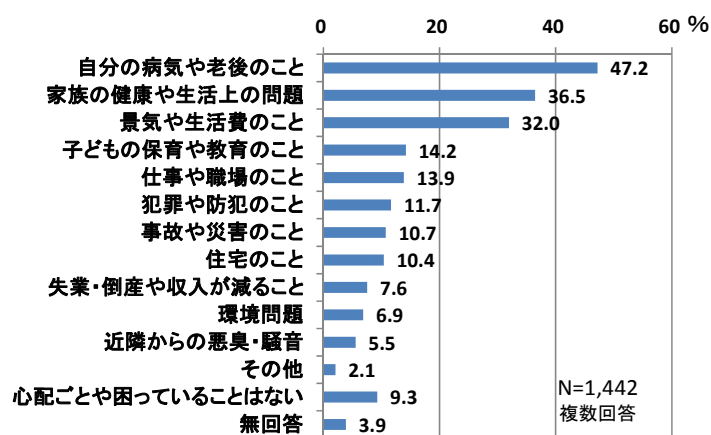


問2 あなたは、近頃、ご自分やご家族の生活のことで心配ごとや困っていることがありますか。
(○は3つまで)

「自分の病気や老後のこと」を5割弱が挙げている

「自分の病気や老後のこと」が5割弱で最も多く、「家族の健康や生活上の問題」、「景気や生活費のこと」を3割以上の方が挙げています。

図 自分や家族の生活で心配なことや困りごと(全体)

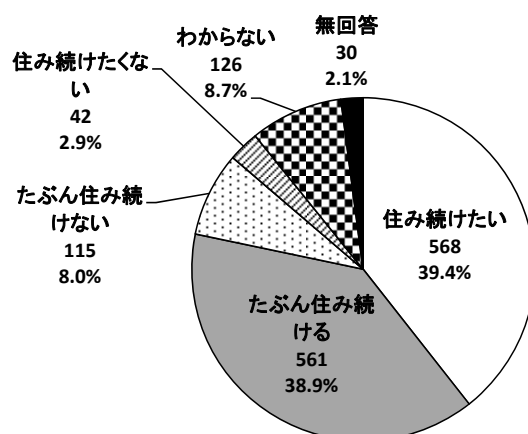


2. 定住意向について

問3 あなたは、現在お住まいの地域(あるいは周辺の地域)に住み続けたいですか。(〇は1つ)

8割近くの人に定住意向がある

「住み続けたい」と「たぶん住み続ける」が拮抗しており、これらを合わせると8割近くの人に定住意向があります。「たぶん住み続けない」と「住み続けたくない」は合わせて1割程度です。

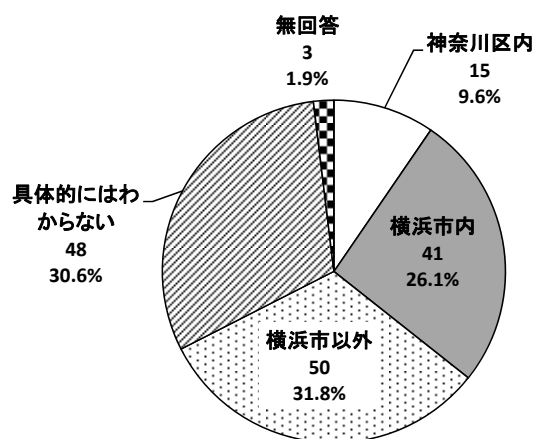


N=1,442

問4 問3で「3 たぶん住み続けない」「4 住み続けたくない」と答えた方におたずねします。移転先としては、神奈川区内、横浜市内、横浜市以外のいずれを希望されますか。(〇は1つ)

「横浜市以外」「具体的にはわからない」がともに3割強

「横浜市以外」、「具体的にはわからない」が3割強で拮抗しています。



N=157

3. 現在のお住まいの環境について

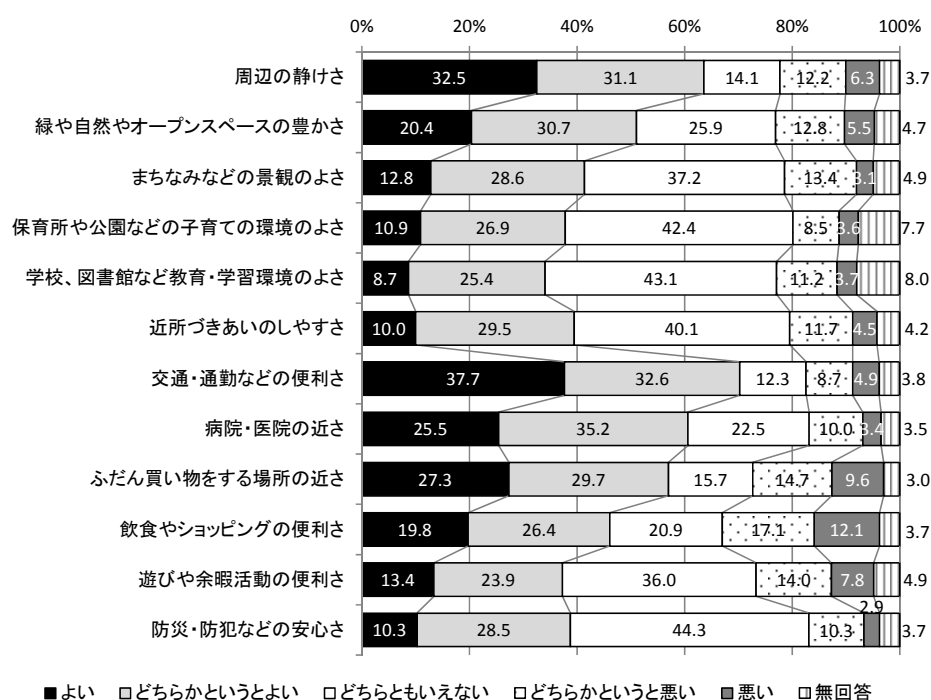
問5 あなたは、現在のお住まいの環境に関する次の項目について、どのように感じていますか。現在の状況と以前と比べての変化、それぞれについて該当する番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

<現在の状況>

交通や生活の利便性への評価が高い一方で、周辺の静かさや自然も評価されている

「よい」が最も多くなっているのは「周辺の静けさ」「交通・通勤などの便利さ」の2項目、「どちらかというといよい」が最も多いのは「緑や自然やオープンスペースの豊かさ」「病院・医院の近さ」「ふだん買い物をする場所の近さ」「飲食やショッピングの便利さ」の4項目で、交通や生活の利便性への評価が高い一方で、周辺の静かさや自然も評価されています。

「よい」「どちらかといえよよい」を合わせた数値をみると、「交通・通勤などの便利さ」で7割、「周辺の静けさ」「病院・医院の近さ」で6割を超えています。一方、「悪い」「どちらかといえよ悪い」を合わせた数値をみると、「ふだん買い物をする場所の近さ」「飲食やショッピングの便利さ」「遊びや余暇活動の便利さ」の3項目が2割を超えています。



N=(1,442)

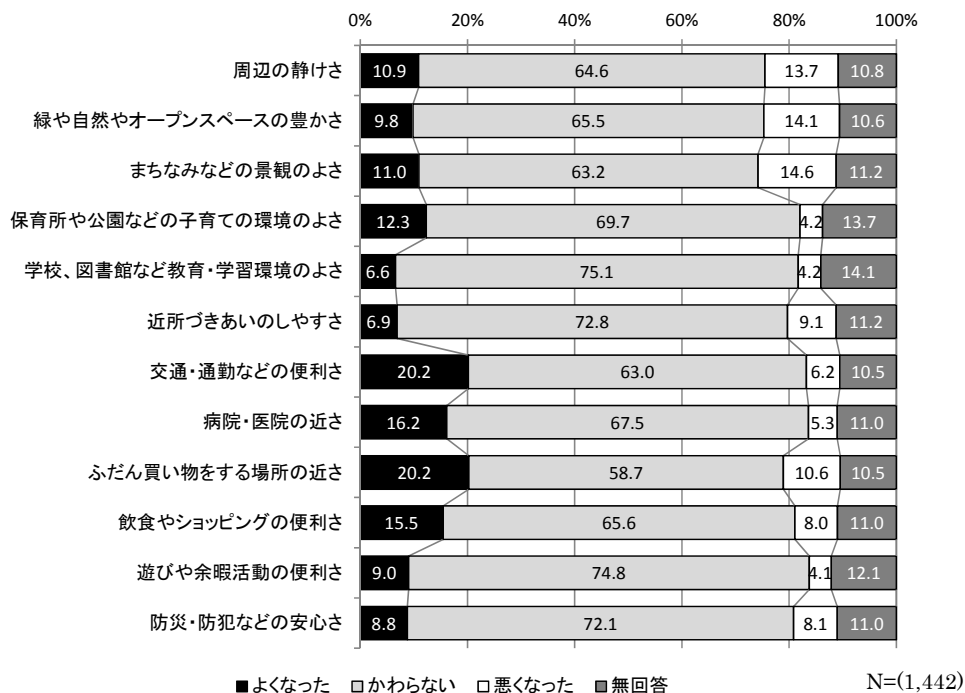
<以前と比べて>

いずれも「かわらない」が最も多い

以前との比較では、いずれも「かわらない」が最も多くなっています。

「よくなった」の数値が最も高いのは「交通・通勤などの便利さ」「ふだん買い物をする場所の近さ」で、いずれも2割を超えています。

「悪くなった」の数値が最も高いのは「まちなみなどの景観のよさ」、次いで「緑や自然やオープンスペースの豊かさ」「周辺の静けさ」の3項目が1割を超えており、自然環境や住環境に関する変化の評価が低くなっています。



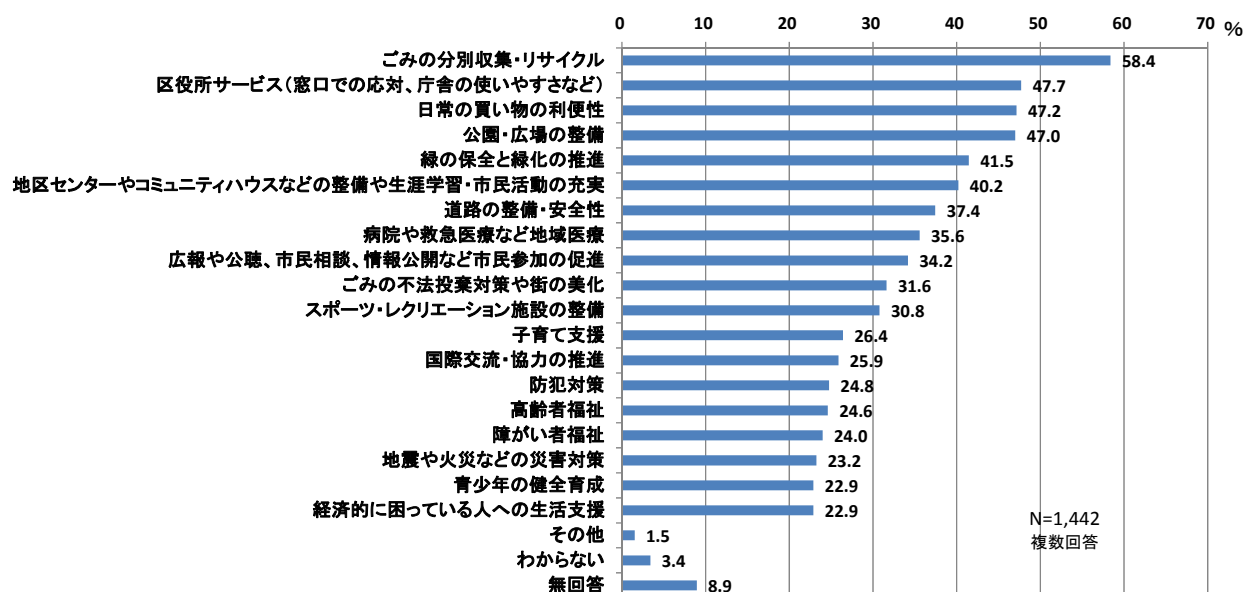
4. 神奈川区の行政サービスについて

問6 神奈川区の行政サービスのなかで、(ア)あなたが満足しているサービス、(イ)今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。(ア)、(イ)それぞれに、あてはまるものすべてに○

(ア)満足している神奈川区の行政サービス

「ごみの分別収集・リサイクル」を6割近くの人が挙げている

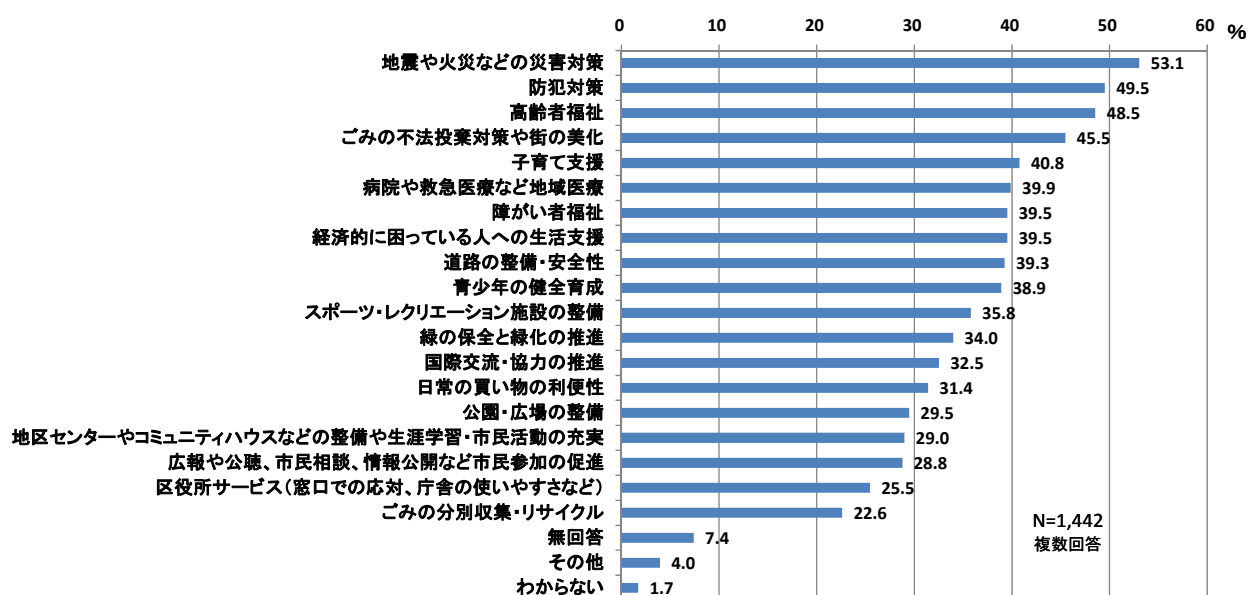
満足しているサービスとしては、「ごみの分別収集・リサイクル」が最も多く6割近くの人が挙げています。次いで「区役所サービス（窓口での対応、庁舎の使いやすさなど）」、「日常の買い物の利便性」、「公園・広場の整備」を5割弱が挙げています。



(イ)今後、充実すべきだと思う神奈川区の行政サービス

安全・安心や福祉にかかわるサービスが上位

今後、充実すべきだと思う行政サービスとしては、「地震や火災などの災害対策」が最も多く、次いで「防犯対策」、「高齢者福祉」、「ごみの不法投棄対策や街の美化」、「子育て支援」と、安全・安心や福祉にかかわるサービスが上位に挙がっています。

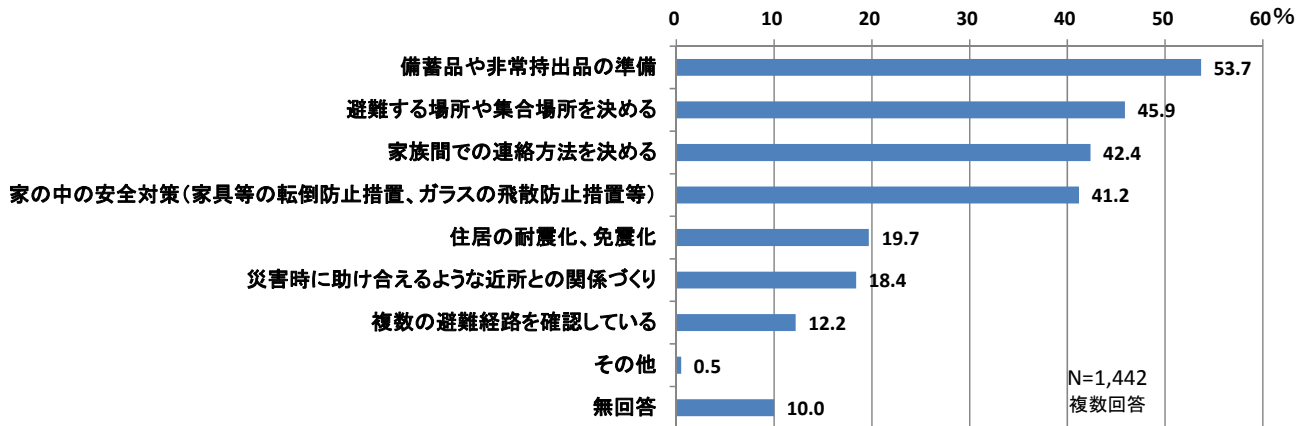


5. 災害への備えについて

問7 地震災害への備えを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

過半数が「備蓄品や非常持出品の準備」を挙げている

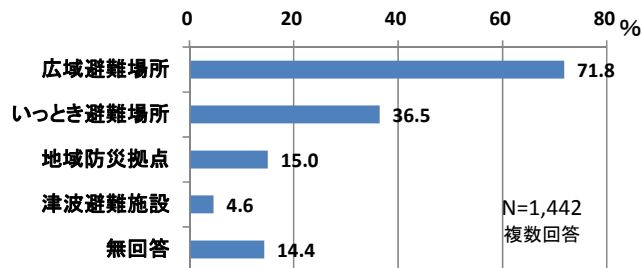
「備蓄品や非常持出品の準備」が最も多く、過半数の人が挙げています。以下「避難する場所や集合場所を決める」、「家族間での連絡方法を決める」、「家の中の安全対策（家具等の転倒防止措置、ガラスの飛散防止措置等）」を4割以上の人が挙げている。



問8 お住まいの地域の避難場所を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

「広域避難場所」の認知度は7割以上

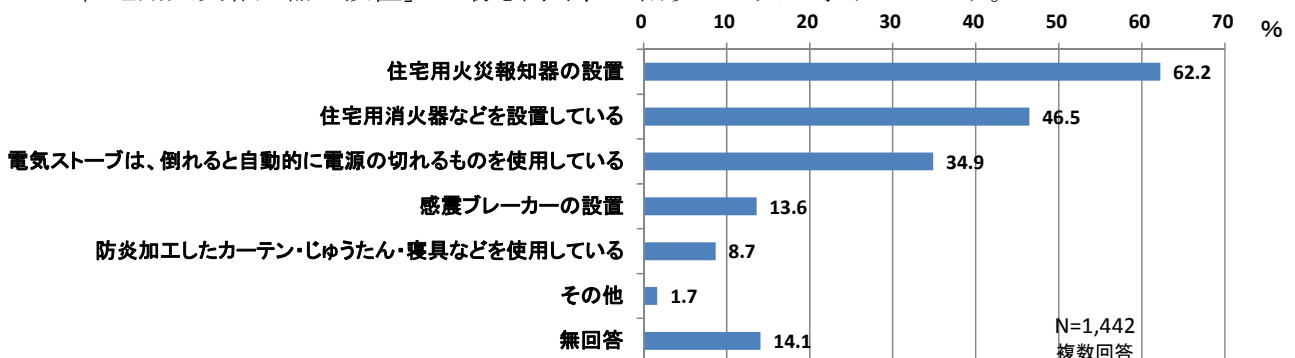
「広域避難場所」の認知度は7割以上で4項目中最も高くなっています。以下「いつとき避難場所」、「地域防災拠点」、「津波避難施設」と続き、「津波避難施設」の認知度は1割未満です。



問9 震災時の出火防止のための対策をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

「住宅用火災報知器の設置」を6割以上が挙げている

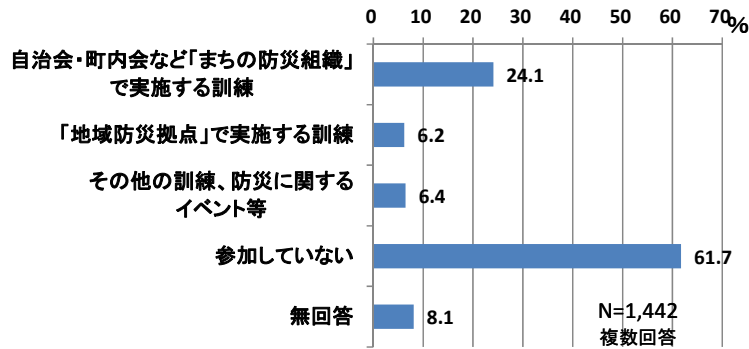
「住宅用火災報知器の設置」が最も高く、6割以上の人が挙げられています。



問10 地域で実施される防災訓練に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)
また、参加していない場合にはその理由は何ですか。

「参加していない」が6割以上

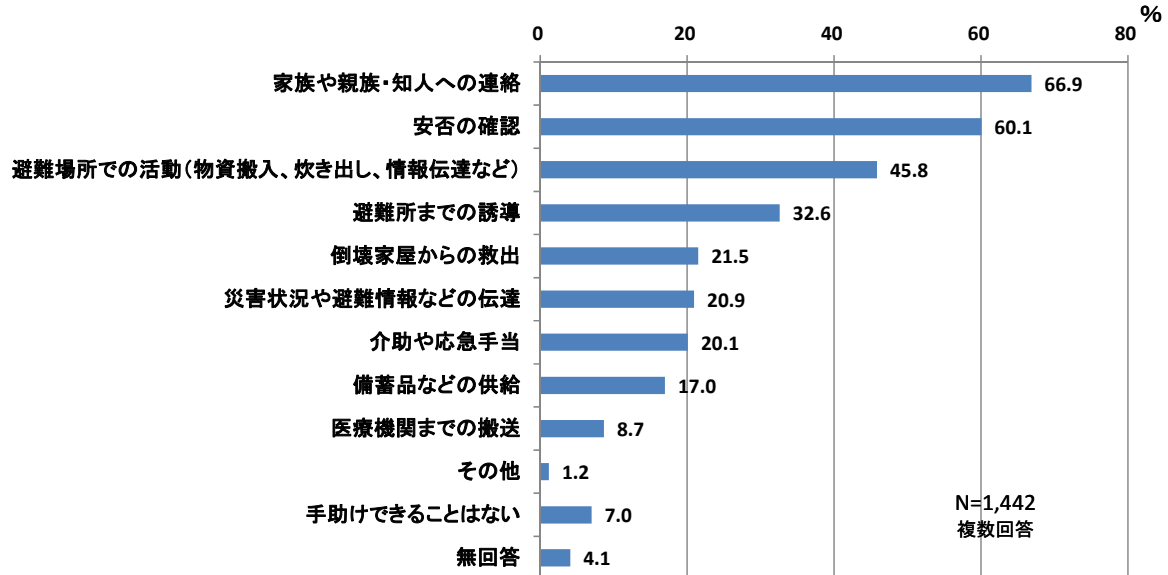
「参加していない」が圧倒的に多く、6割以上に達しています。参加している防災訓練で最も多いのは「自治会・町内会など『まちの防災組織』で実施する訓練」です。



問11 災害が発生したとき、あなたが地域でできる手助けはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

「家族や親族・知人への連絡」「安否の確認」が6割以上

「家族や親族・知人への連絡」が最も多く、次いで「安否の確認」となっています。一方「手助けできることはない」は7.0%となっています。



問12 神奈川区では、震災等に備え自治会町内会等において要援護者（高齢者・障害者など、避難支援を必要とする方）の情報を把握することや、具体的な支援体制が整備されることを目指して取組を進めています。

(ア)実際に「災害が発生したとき」に、あなたはこのような要援護者の支援について、どのような協力ができそうですか。(あてはまるものすべてに○)

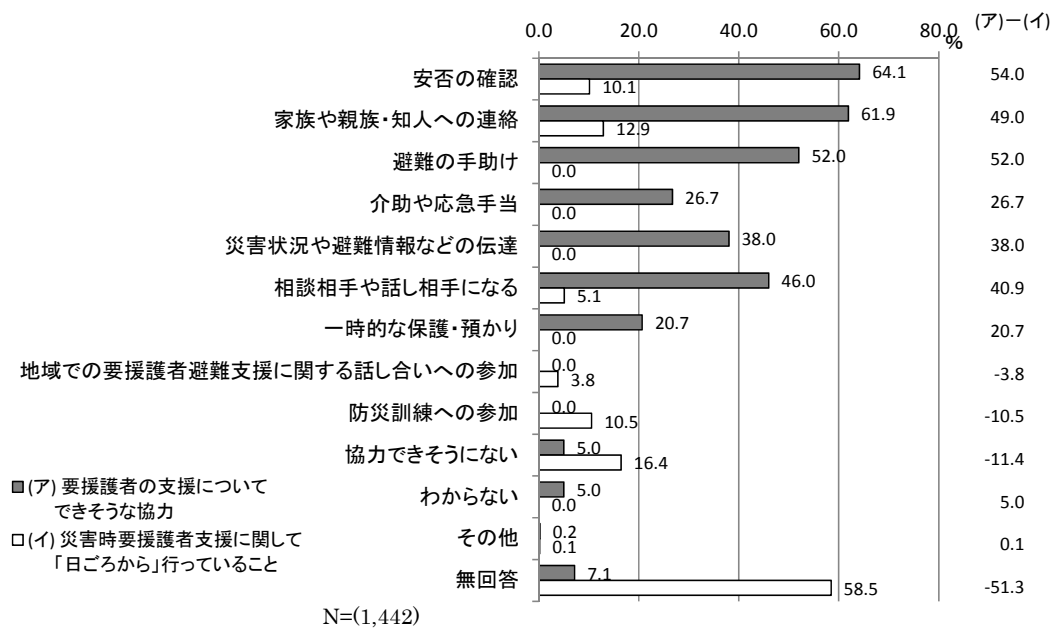
(イ)災害時要援護者支援に関して、あなたが「日ごろから」行っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

できそうな協力は、「安否の確認」「家族や親族・知人への連絡」が6割以上

できそうな協力としては、「安否の確認」が最も多く、次いで「家族や親族・知人への連絡」で、ともに6割以上の方が挙げています。以下「避難の手助け」、「相談相手や話し相手になる」を5割前後、「災害状況や避難情報などの伝達」を4割弱が挙げています。

日ごろから行っていることは、「協力できそうにない」が最多

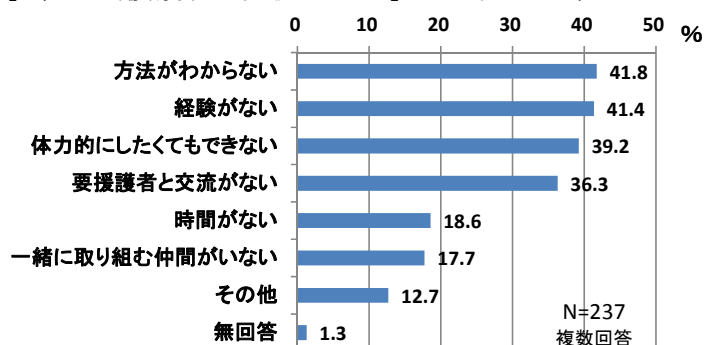
日ごろから行っていることとしては、「協力できそうにない」が最も多くなっています。「家族や親族・知人への連絡」、「防災訓練への参加」、「安否の確認」が1割程度です。



問13 協力できない理由はどのようなことですか。(問12の(イ)で「⑩協力できそうにない」に○を記入した方のみ、あてはまるものすべてに○)

「方法がわからない」「経験がない」がともに4割強

「方法がわからない」が最も多く、僅差で「経験がない」が続いています。以下「体力的にしたくてもできない」、「要援護者と交流がない」を4割弱が挙げています。



6. 地域での生活について

問14 隣近所とのつき合い方についておたずねします。(ア)、(イ)について該当する欄の番号に○をつけてください。

(ア)あなたは、隣近所と普段どのようなつき合い方をしていますか。(○は1つ)

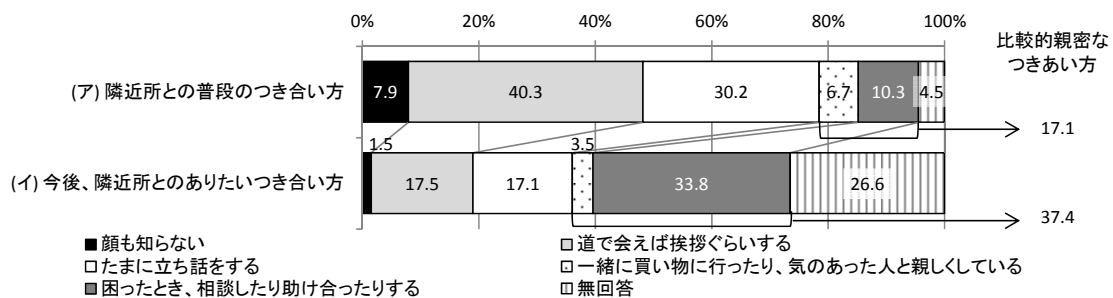
(イ)あなたは、今後の隣近所とのつき合い方について、どうありたいと考えていますか。(○は1つ)

普段のつき合い方は「道で会えば挨拶ぐらいする」

普段のつき合い方としては、「道で会えば挨拶ぐらいする」が最も多く、全体の約4割を占めています。次いで「たまに立ち話をする」が全体の3割となっており、この2つに回答は集中しています。

今後ありたい付き合い方は「困ったとき、相談したり助け合ったりする」

今後の隣近所とのつき合い方としては、「困ったとき、相談したり助け合ったりする」が最も多く、全体の約3分の1となっています。次いで「道で会えば挨拶ぐらいする」、「たまに立ち話をする」が2割弱で、現在のつき合いよりも一歩進んだつき合い方が望まれていることがうかがわれます。



N=(1,442)

問15 地域の活動についておたずねします。(ア)～(ウ)について該当する欄の番号に○をつけてください。

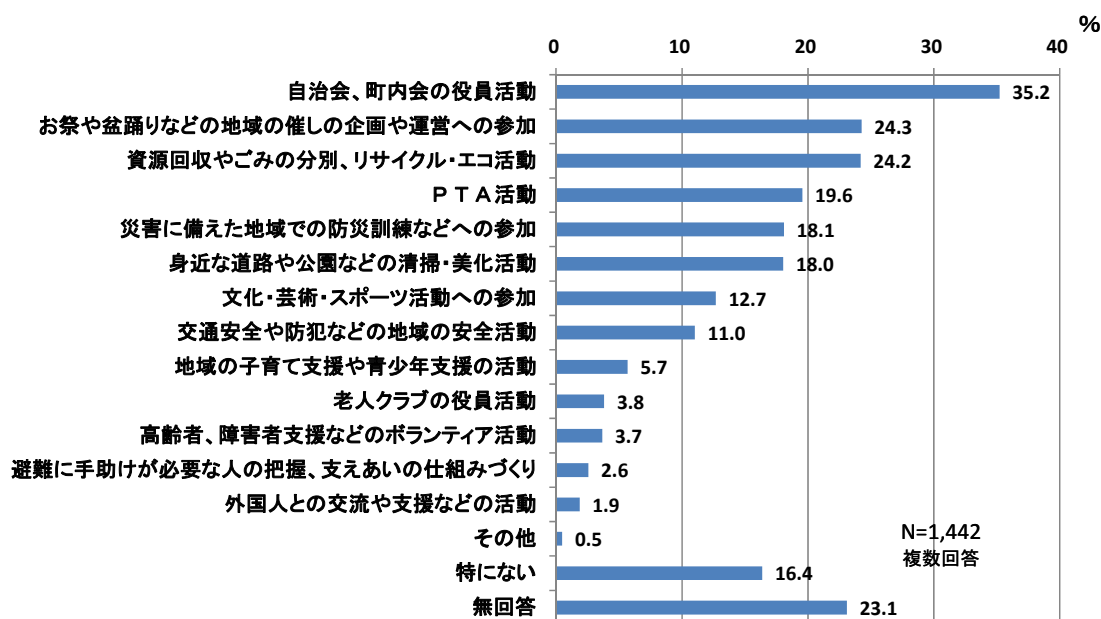
(ア)参加している(したことがある)活動は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

(イ)今後参加してみたい活動は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

(ウ)特に重要だと思う活動は何ですか。(○は3つまで)

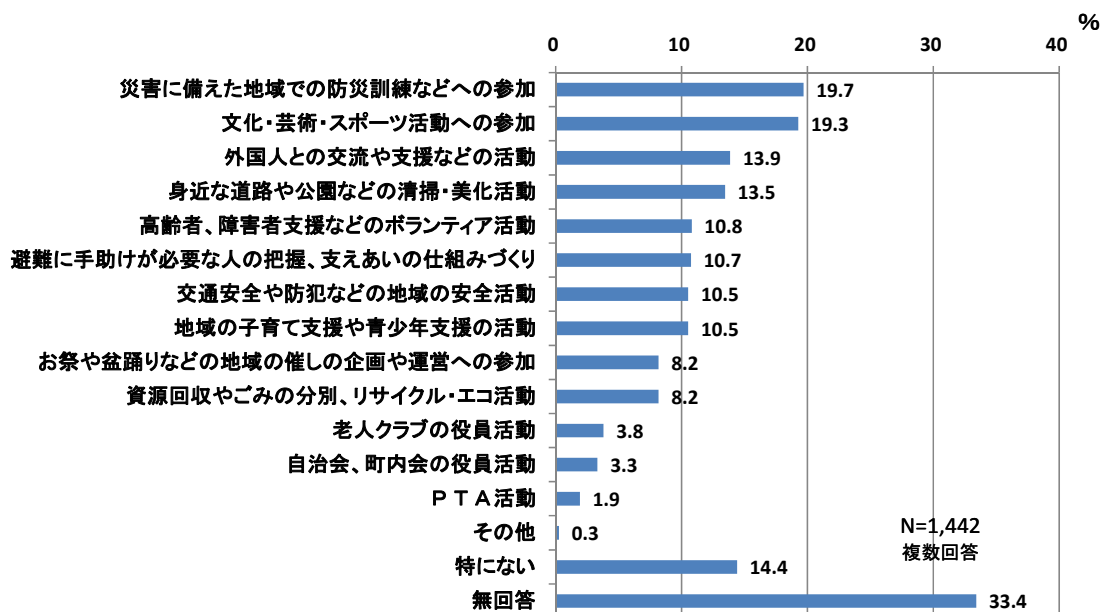
参加したことがある活動は「自治会、町内会の役員活動」が最も多い

参加したことがある活動は「自治会、町内会の役員活動」が最も多く、次いで「お祭や盆踊りなどの地域の催しの企画や運営への参加」、「資源回収やごみの分別、リサイクル・エコ活動」が並んでいます。



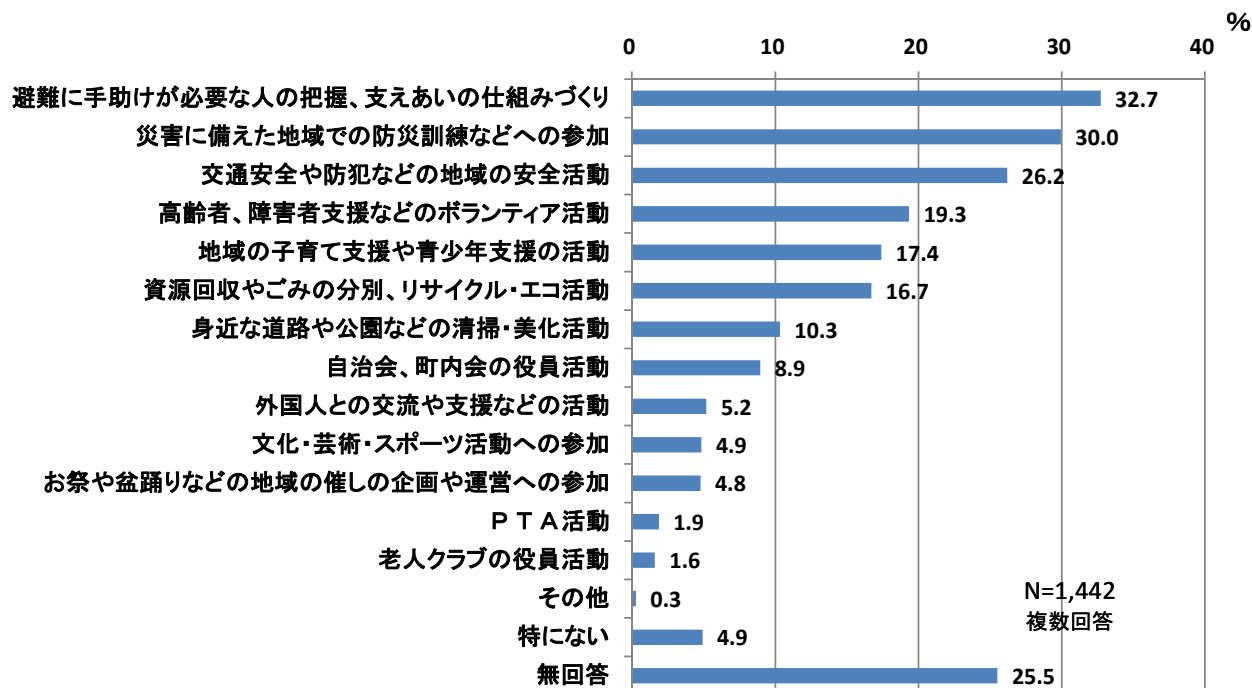
今後参加してみたい活動は「災害に備えた地域での防災訓練などへの参加」、「文化・芸術・スポーツ活動への参加」が拮抗

今後参加してみたい活動は「災害に備えた地域での防災訓練などへの参加」、「文化・芸術・スポーツ活動への参加」が2割弱でほぼ並んでいます。



特に重要だと思う活動は、「避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」など災害に関する項目が上位

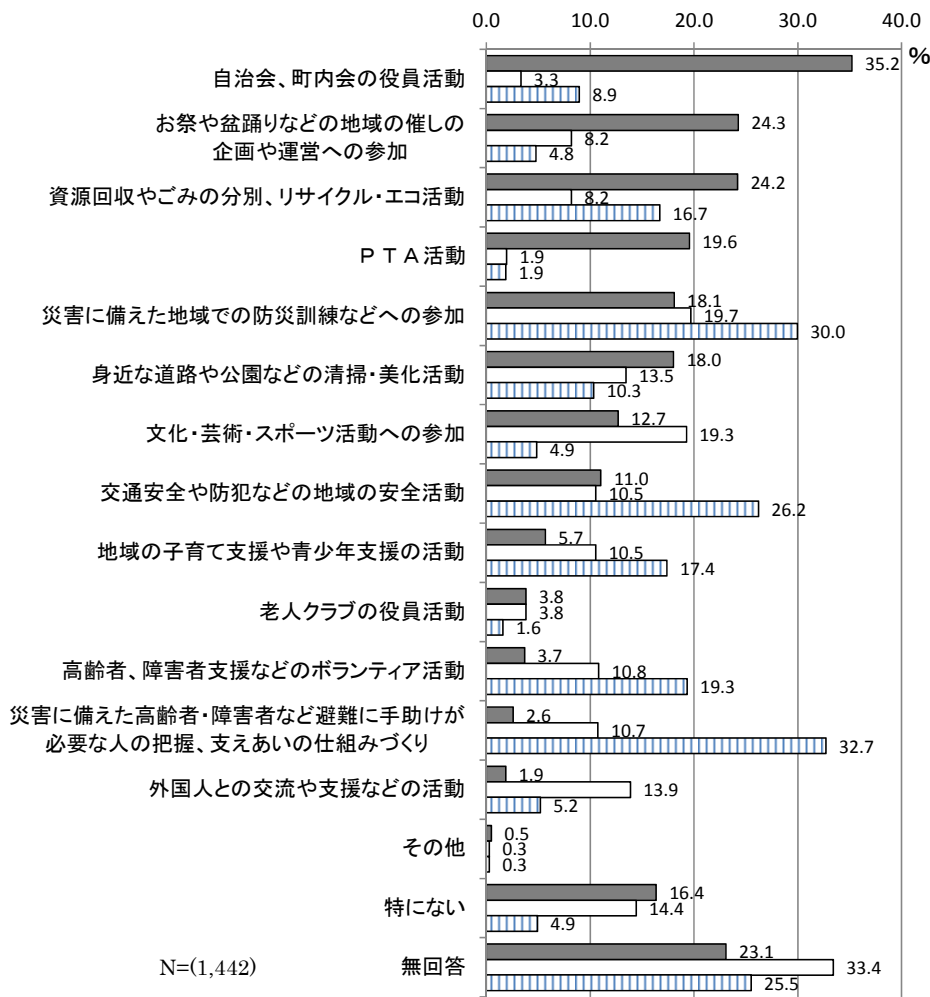
特に重要だと思う活動は「避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」が最も多く、次いで「災害に備えた地域での防災訓練などへの参加」と、災害に関する項目が上位となっています。



■ 参加している(したことがある)活動・今後参加してみたい活動・特に重要だと思う活動の比較

「参加している(したことがある)活動」と「今後参加してみたい活動」とで最も大きな差があるのは「自治会、町内会の役員活動」で、「参加している(したことがある)活動」の数値が31.9ポイント、「特に重要だと思う活動」とも26.3ポイントの差があります。

「特に重要だと思う活動」の割合が最も高い「災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」では「今後参加してみたい活動」の割合と22.0ポイントの差があります。更に、「参加している(したことがある)活動」とは30.1ポイントの差があり、重要だと思うが実際には活動していない結果となっています。

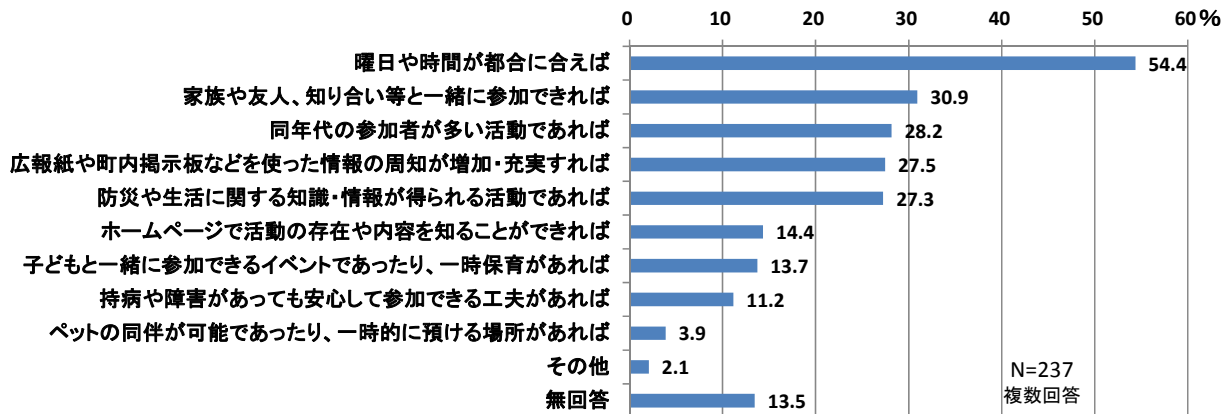


■(ア) 参加している(したことがある)地域の活動 □(イ) 今後参加してみたい地域の活動 □(ウ) 特に重要だと思う地域の活動

問16 自治会・町内会の活動について、あなたはどんな工夫があれば「活動に参加できるようになれる」、または「今まで以上に参加しやすくなる」と思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「曜日や時間が都合に合えば」が最も多い

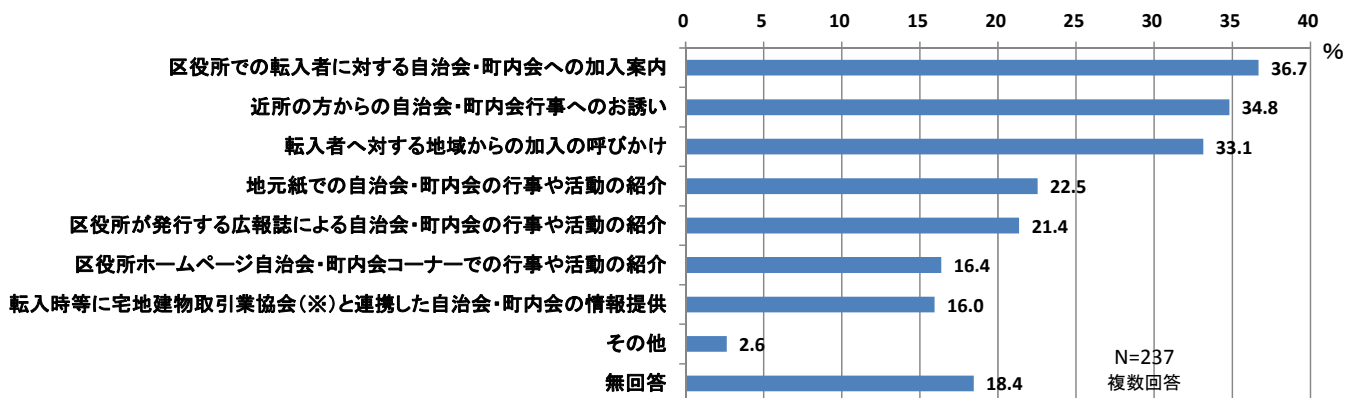
「曜日や時間が都合に合えば」が最も多く、過半数の人が挙げています。次いで「家族や友人、知り合い等と一緒に参加できれば」が約3割、「同年代の参加者が多い活動であれば」、「広報紙や町内掲示板などを使った情報の周知が増加・充実すれば」、「防災や生活に関する知識・情報が得られる活動であれば」が3割弱となっています。



問17 自治会・町内会への加入促進にはどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「区役所での転入者に対する自治会・町内会への加入案内」が最も多い

「区役所での転入者に対する自治会・町内会への加入案内」が最も多く、これに「近所の方からの自治会・町内会行事へのお誘い」、「転入者へ対する地域からの加入の呼びかけ」が続いています。



問18 近所での助け合いについておたずねします。

(ア)ちょっとした困りごとがあった場合に、近所で手助けをしてもらいたいことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

(イ)ちょっとした困りごとがあった場合に、あなたが近所で手助けできそうなこと、または手助けしていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

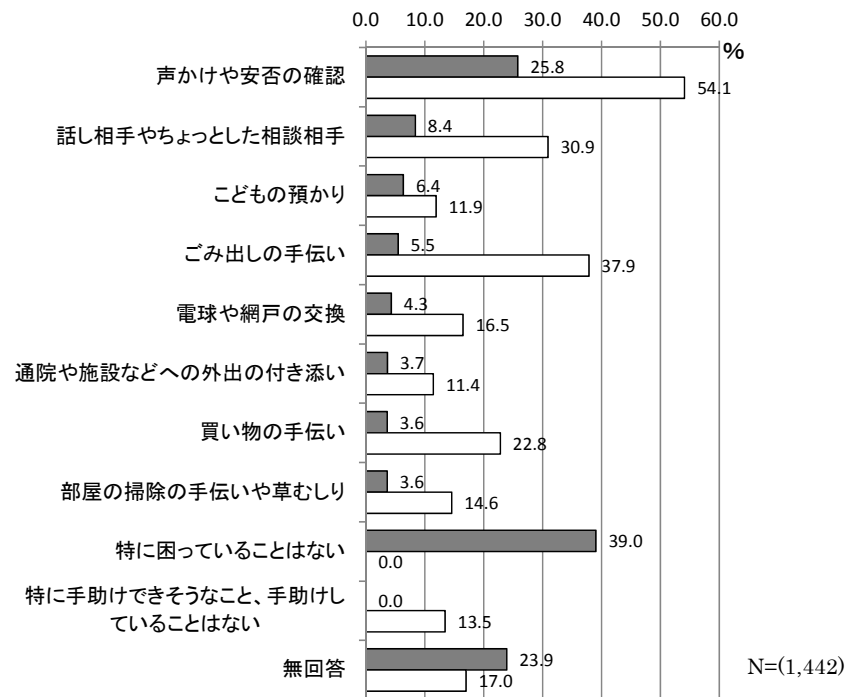
近所で手助けをしてもらいたいことは、「特に困っていることはない」

近所で手助けをしてもらいたいこととしては、「特に困っていることはない」が最も多く、次いで「声かけや安否の確認」となっています。

近所で手助けできそうなことは「声かけや安否の確認」

近所で手助けできそうなこと、または手助けしていることとしては、「声かけや安否の確認」が最も多く、次いで「ごみ出しの手伝い」、「話し相手やちょっとした相談相手」、「買い物の手伝い」などと続き、手助けされるより手助けしたい傾向がうかがわれます。

図 近所での助け合いについて(全体)



■ (ア) ちょっとした困りごとがあった場合に、近所で手助けをしてもらいたいこと

□ (イ) ちょっとした困りごとがあった場合に、近所で手助けできそうなこと

7. 健康づくりについて

問19 健康に関する習慣についておたずねします。

(ア) 日ごろ、健康づくりのために何か取り組んでいることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

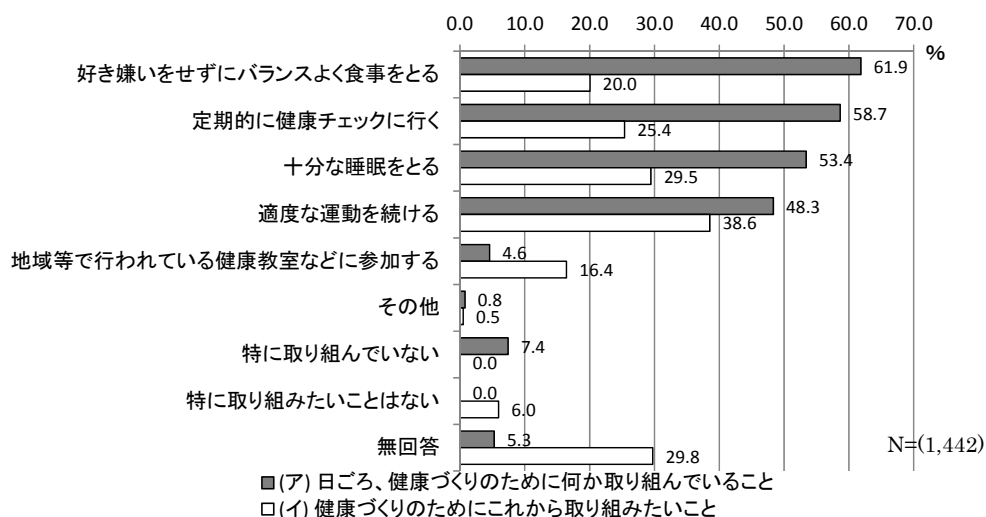
(イ) これから、取り組みたいことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

日ごろ取り組んでいることは、「好き嫌いをせずにバランスよく食事をとる」

日ごろ取り組んでいることとしては、「好き嫌いをせずにバランスよく食事をとる」が最も多く、6割以上の方が挙げています。次いで「定期的に健康チェックに行く」、「十分な睡眠をとる」、「適度な運動を続ける」と、この4点に回答が集中しています。「特に取り組んでいない」は1割に満たず、多くの方が健康づくりのために既に何かしらの取り組みをしています。

これから取り組みたいことは、「適度な運動を続ける」

これから取り組みたいこととしては、「適度な運動を続ける」、「十分な睡眠をとる」、「定期的に健康チェックに行く」、「好き嫌いをせずにバランスよく食事をとる」の順で、現在取り組んでいないことと逆順になっています。



平成 26 年度神奈川区区民意識調査報告書

【概要版】

平成 26 年 10 月

【調査実施 平成 26 年 6 月】

発行：神奈川区役所 区政推進課
〒221-0824
横浜市神奈川区広台太田町 3-8
電話 045 (411) 7027
Fax 045 (314) 8890

◆調査実施機関：株式会社 地域環境計画